

春ノ翔意地の一巻

紙相撲新聞

第163回本場所
八〜九日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

春ノ翔、速攻相撲で若ノ嶋を粉砕 一敗で千代鈴、若ノ嶋が最終局面に

〔第百六十三回本場所八日〜九日目〕

遅めの紅葉が木々を彩り晴天に恵まれた11月23日に八日目、九日目が行われ、初日から7連勝の横綱若ノ嶋が八日目も勝って8連勝としたものが九日目に横綱春ノ翔に今場所初黒星を喫して1敗となり、1敗を守った横綱千代鈴の2人の横綱が優勝争いの先頭に立った。

これを大関西神門、平幕の出羽翼の2人が2敗で追う展開で、優勝はこの4力士に絞られた。



↑九日目、8連勝の若ノ嶋は宿敵春ノ翔と対戦。過去9勝9敗と全く互角の横綱同士の対戦は、休場明けで再起のためには負けられない春ノ翔の意地が若ノ嶋の勢いを上回った。

↓1敗で若ノ嶋を追う千代鈴は平幕で好調の鉄甲と照の王を難なく下して、遂に若ノ嶋と並んだ。



初日から土つかず、奇跡の7連勝で優勝争いの単独トップに立った横綱若ノ嶋。朝日松理事長から「若ノ嶋は今場所全勝優勝するんじゃないか」という言葉が聞かれるくらい強い横綱相撲を見せている。

八日目は永遠のライバル照の王との割り組まれた。照の王とは平成27年138回場所以来、9年振りの対戦となる。

「ワンさんとの対戦かあ。もう本場所土俵で対戦することはないかと思ってたが、こんな嬉しいことはないよ」と若ノ嶋は勝敗よりも照の王と対戦ができることを心から喜んでた。

注目の一番はお互いに気負いがあつたか立合いが合わず、3度目に立つや、若ノ嶋が押し込み最後は押し出した。照の王が土俵を割って勝負が決まったところでお互いの健闘を讃え合うかのように見つめ合ってた。

互いに気負いがあつたか立合いが合わず、3度目に立つや、若ノ嶋が押し込み最後は押し出した。照の王が土俵を割って勝負が決まったところでお互いの健闘を讃え合うかのように見つめ合ってた。



若ノ嶋○(寄り切り) ●烏帽子

*編集部注：照の王は本名「王(ワン)」、二人は同期だが照の王が2才年上のため、シマちゃん、ワンさん(または嶋公、ワン様)と呼び合っているとのこと(故青木氏情報)

一方の照の王は「シマちゃんは今場所絶対好調だけど、俺が初黒星をつけてやる!」と意気込んだ。

一敗 千代鈴、若ノ嶋
二敗 西神門、出羽翼

が、5回目の優勝に向けて気合いを入れ直す若ノ嶋だった。

横綱千代鈴は四日目に綱乃花に敗れたが、それ以外は危なげない横綱相撲を見せている。このまま千秋楽まで白星を重ねつつ先を行く若ノ嶋との決戦に備えたいところ。

八日目はこれまで2敗を喫している鉄甲に押し返して万全の相撲で寄り切ると、九日目も照の王を圧倒して1敗を守った。

今場所に進退を賭け



春ノ翔○(寄り切り) ●麒麟王

横綱春ノ翔は八日目に麒麟王を危なげない相撲で寄り切り、九日目は全勝の若ノ嶋を押し倒しに破り勝ち越した。桐壺親方は負け越せばと覚悟していたが、これで見事な連続行かせるものと思われ。

若ノ嶋はこれで8連勝。現実味を帯びてきた「ねえ!」と鹿賀乃戸親方。しかし九日目にこれまでの対戦成績で9勝9敗と五分の横綱春ノ翔にのど輪で押し倒された。手痛い1敗を喫した。

「場所前の稽古総見でも同じような取り口であつて振り回したんだよな。全勝優勝の芽は潰えた」



綱乃花●(寄り切り) ○西神門

2敗の大関西神門は綱乃花、鬼ヶ嶽と難敵を連破。星一つの差で両横綱を追う。

前頭十一枚目まで番付を下げた元脇の出羽翼はさすがにこの位置



桃乃洲●(叩き込み) ○出羽翼



鉄甲●(寄り切り) ○千代鈴